

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 9月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・ コロナ禍の影響で先々取引先での商品生産量、設備投資の状況推移は不明である。
- ・ 食品製造加工業は、生産量が今後増加し、設備投資も増えると判断している。
- ・ それに伴い仕事も増加、対策として増員計画を立てているが、求職者が全くいない状況であり、求職者を集めるのに思案中。
- ・ 建設業従事者の慢性的不足及び高齢化、建設需要の減少が業績の足かせとなっているため、DXの普及に注力していく。
- ・ コロナウイルスの影響で工事が先延ばしとなっており、業況に悪影響が及んでいる。もうしばらくは我慢が必要かと思われる。
- ・ 元請からの仕事量が少ない。
- ・ ワクチン接種が進んでおり景色は変わりつつあるが、影響のある顧客の動きはまだ見えない。
- ・ 社内ではクラスターを出さぬよう緊張感をもった危機管理体制を続けている。
- ・ 折り返しの半期決算、連結では増収・増益、受注減である。

◎製造業

- ・ コロナウイルスの影響で宅配業者からのトラックの注文が増え、売上は昨年より多い。
- ・ 贈答用（冠婚葬祭）は低迷しているが、自家用消費は堅調である。
- ・ ベニア板などはすでに値段が高止まり。これからウレタンフォーなど石油関連資材の値上げが控えている。
- ・ 依然として今後の原材料（鋼材、非鉄金属等）価格の高騰が懸念される。
- ・ 前月よりも鋼材・購入品の価格上昇と長納期化がさらに進んだ感がある。そのため工程がギリギリの状態。社内でコロナ感染が発生した場合の影響は計り知れない。
- ・ 新たな変異株も見つかり、人類と菌の戦争のように思えるが、社員の「自分が会社においてコロナ1号にはなりたくない」という言葉が心にしみた。

◎卸売業

- ・ 公共資材卸売りにつき、繁忙期に突入し、受注件数は増加。
- ・ 今後のコロナ回復に期待。
- ・ 公共事業の削減が影響している。
- ・ コロナにより全てダメ。
- ・ 新型コロナの影響がまだ続いている。
- ・ まん延防止措置が発令されるとお客様が休んだり、営業時間短縮などでかなりの影響が出る。雇用調整助成金の延期がないと今後も厳しい状況。
- ・ 材料値上げ状況も落ち着かず、電子部品の供給は不安定、製品は納期遅延が起きている。
- ・ 身近なところでのウイルス問題で、2次感染リスクが大きくなっている。
- ・ 8月の気象災害の影響から入荷量が減少傾向にあり、価格はしばらく高い状態が続く見通しである。

◎小売業

- ・新型コロナウイルスによる影響で売上が落ち込んでいる。
- ・県の特別警報による影響がある。
- ・8月中旬以降、新潟県、新潟市における感染拡大に伴う特別警報発出の影響及び感染力の高い変異株に移っていることで、感染防止に対する意識が高まり来店客数が大きく減少している状況が今月に入っても継続している。
- ・今後感染者が減少しても、変異株で感染しやすいという懸念と、反面ワクチン接種者が拡大することによる意識の変化がどのような影響をもたらすかが全く不透明であるため、今後の動きを注視する。
- ・これ以上自粛が続キイベントも出来ない状態が続くと売上アップは見込めない。
- ・今年は、世の中のムードが景気を押し下げそうで懸念している。
- ・身近なところで、コロナに感染する方が出てきており不安もある。若い方たちの接種率が上がらないと不安が払拭されないため、世の中の動きが良くなれないと思う。
- ・政府にばかり期待をしてはいけないが、ここからが政府の腕の見せ所かとも思う。
- ・経済が疲弊しきり、政府の決断の悪さに信頼できない状態である。
- ・オリンピック開催によるウイルスの流入が、ウイルスの爆発的拡大の原因と考えている。
- ・不安の中では経済発展もあてにならないのが現状。

◎サービス業

- ・新型コロナ対策と政局動向による景気高揚の足踏みが懸念される。
- ・新型コロナウイルスによる影響で売上は前年比 35%ダウン、一昨年比 60%ダウン。事務ばかり増えて売上は回復せず限界。
- ・8月10日から営業時間の短縮要請により売上・来客数が減少している。
- ・協力金の支給があるため補填にはなる。
- ・地域のお店応援商品券、GoTo イートクーポンは依然として消費活動に寄与している。
- ・今後は、仕入価格の上昇、最低賃金の上昇、コロナ不況のトリプルパンチにどう対処するかが大切。
- ・時短営業継続のため、人流がなく売上が上がらない。
- ・8月の段階では、依然として新型コロナウイルスによる影響が残っているが、一部の業種では持ち直しの兆しが出始めている関係で業績に改善が見られるようになってきた。
- ・今後、ワクチン接種が拡大され徐々に経済活動が動き始めることを期待するが、特別警報が発令されたため、今後も状況を注意深く見守る必要がある。
- ・巣ごもり需要やコロナ感染対策商品のニーズに対応することやコロナ収束後の本業サービスの本格提供に向けた準備を進めていく。
- ・ここにきてより身近に新型コロナを感じるようになった。
- ・ワクチンの効果も疑問視され始め、さらには新潟県の特別警報が拡大と延長で、良い条件が皆無となってきた。
- ・各種キャンペーンや消費喚起・需要拡大策にもブレーキがかかり、成果につながらない。このままでは昨年よりも悪い状況を覚悟する必要がある。
- ・現在人が集まるのはワクチンの接種会場だけと思われる。一企業というよりも、タクシー業界全体の存続に関わり始めている。
- ・今月は売上が伸び少しほっとしたが、PCR 検査の結果が出るまで出勤できなかつたりと身近に怖さを

感じる。

- ・ 3 月頃からの売上が前年比では悪いなりにプラスとなり少しは期待していたが、8 月は中旬頃から俄かに人流が止まったようで、売上が前年比で初めてマイナスとなった。
- ・ 原因は感染拡大であり、夜間営業の業種への規制が厳しくなったことで送迎客の足が止まったことが影響している。
- ・ 雇用調整助成金の継続が望まれるが、これに頼るばかりの経営からの脱出を試みなければ停止と同時に倒産が待ちかまえている。
- ・ 受注量は増える見通しだが、人員不足により受注調整が必要になりそう。
- ・ コロナウイルスによる影響はここにきてさらに加速していると感じる。また、変異株による感染などがあり、状況は非常に悪化している。
- ・ 人員の募集もしているが、全くの問い合わせなし。働く人が溢れているという情報が出ているが、どの業種なのか。
- ・ 雇用に関しても状況は悪化傾向。一日も早い収束を願うばかり。
- ・ 顧客の下請金属部品加工業者の景気は良くなっていると思われるが、単価が厳しい。
- ・ IT 関連の下請業者の単価は、リーマンショックの直後から少しも改善していない。
- ・ 新型コロナウイルスの影響はそこまで出ていないが、パート従業員が多数在籍する弊社では最低賃金の引き上げが不安材料。
- ・ コロナ禍での客先との金額交渉がなかなか難しいのが現状。
- ・ 新型コロナウイルスによる影響は昨年と比較すると少し収まってきているが、まだまだ回復には及ばない。
- ・ 原油高騰・ウッドショックにより、製作部門の材料となる木材・塗料が相次いで値上がりしてきているため、その影響も不安材料となる。
- ・ ワクチン接種が浸透し、感染が収束すれば徐々に元に戻っていくと思われるが、それまで何とか持ちこたえられるよう試行錯誤しながら踏ん張っていきたい。
- ・ 業況は昨年に比べると上向いてはいるものの、東京オリンピック閉幕後は物量が伸び悩み、緊急事態宣言のエリア拡大が大きく影響している。
- ・ 以前は研修や出張で県外の行き来もあったが、今はテレワークが進み、オンラインで簡単に会議が開催出来るようになったため、会議自体の回数が増えた。
- ・ 土地の規制が緩和されず、開発の遅れは首都圏に太刀打ちできない。
- ・ 農業特区と開発が両輪で動かなければ他県に遅れをとる。